

令和3年度

外国人生徒キャリアサポート事業「進路セミナー」 実施報告書

1 事業の概要

外国人生徒及び保護者が、日本の学校制度や働き方についての理解を深め、将来の生活を見通して進路を選択するための力を育成するために、外国人生徒が多く在籍する高等学校で、外国人生徒及び保護者向けのセミナーを実施する。

2 実施内容

(1) 三重県立飯野高等学校での進学・就職セミナー

- ① 日 時 11月24日(水) 13:30~15:15
- ② 場 所 三重県立飯野高等学校(鈴鹿市三日市町字東新田場1695)
- ③ 参加者 生徒 1年生 61名
ブラジル 20名、スペイン語圏13名、フィリピン15名、その他13名
- ④ 内 容 ・講演「日本の社会での進学と就職に向けて」(45分)
・卒業生からのお話「高校生の皆さんへ・先輩からのメッセージ」(35分)
・質疑応答、アンケート記入

●講演

「日本社会での進学と就職に向けて」



講師：NPO法人愛伝舎 矢田 郁美

「日本の社会での進学と就職に向けて」として、就職に関しては働き方、生涯賃金、社会保障、在留資格について説明をしました。多くの定住外国人の就労は、非正規雇用であり、保護者も正規雇用と非正規雇用の違いを知らないことがあります。日本で教育を受けて定住していく生徒に、今後就職を考える際には正規雇用と非正規雇用の違いを理解してもらい、将来の就職について考えてもらう機会にしたいと説明をしました。

厚労省で発表された身分に基づく在留資格と一般労働者の年収比較を示し、具体的な数字で待遇の違いを理解してもらいたいと思いました。また進学については、自分の目標を見つけて進路を決めること、また進学に必要な費用(入学金と学費)や、奨学金についての情報を届け、1年生のうちから準備をしていく必要性を説明しました。



卒業生からの話

「高校生の皆さんへ・先輩からのメッセージ」 エストラダ マカザナ ガリア ロシオ

(ペルー出身、飯野高校卒業生)



飯野高校出身で、高田短期大学2年生のガリアさんに、お話しいただきました。子ども時代の話から始まり、中学校での体験、日本語学習のことを含めて話をしてくれました。いじわるされた経験をどう乗り越えたか、など前向きでユーモアたっぷりの話は、生徒たちの心に響いていると感じました。高校時代の体育祭での思い出、先生方とのやり取りなどから学校生活の充実ぶりや先生への信頼感が伝わりました。その事は、生徒たちにとって今在籍する学校や先生への信頼感、安心感につながっていくように感じました。

短大への進学に際して、不安な気持ちを先生や親に相談する中で整理して、乗り越えたことなど、丁寧に話してくれました。そして、この4月から養護施設で働くことになり、社会人として自分の目標をもって進むことで、進学と就職へキャリアを進めていくモデルとしての素敵な姿を見せてくれました。一貫して、明るく前向きな話をしてくれて、とても引き込まれました。後輩たちにとって、目指す像として映ったと思います。

◆ その他

この日は、名古屋出入国在留管理局の受入調整担当職員2名、三重県児童相談センター1名、三重県庁鈴鹿庁舎から1名が見学してくれました。ガリアさんが4月から養護施設で働くので、児童相談センターの方との連携も視野に入れて、参加いただきました。

○ 参加した生徒の感想

- ・ 私は、奨学金について知らないことがたくさんあったので、それを知ることができて良かったです。
- ・ こようけいたいについてもっとよくわかりました。ガリアさんのお話が良かったですし、面白かったです。奨学金についてもこれから考えていこうと思いました。
- ・ 先輩のお話はとても役に立ちました。なぜかという彼女の中学時代は、私みたいに過ごしたので、彼女がしたアドバイスとどのように過ごしたかを聞いてとても役に立ちました。
- ・ モチベーションを挙げて、良い成績を収めたい気持ちになりました。
- ・ 生涯賃金、良くわかりました。ガリアさんの説明はとてもおもしろいでした。
- ・ わかりやすかったです。雇用形態のことについて知れて良かったです。
- ・ 知らないことがいっぱいあったんですが、先生方やガリア先生の話の聞いたらわかりました。嬉しかったです。
- ・ これでみんなに、将来性がよりめばえてくれたら、凄くうれしいと思います。めがえたら話せるテーマが一つ増えるかもしれないから楽しみにしています。



(2) 三重県立みえ夢学園高等学校での就職・進学セミナー

- ① 日 時 12月 22日(水) 15:30～17:00
- ② 場 所 三重県立みえ夢学園高等学校(津市柳山津興1239)
- ③ 参加者 生徒 13名(1年生 2名、2年生 4名、3年生 5名、未記入 2名)
フィリピン 6名、アフガニスタン2名、ボリビア1名、ブラジル2名、日本1名
- ④ 内 容 ・講演「日本の社会での就職と進学に向けて」(20分)
・日本で働く外国人の方からのお話「日本で働くこと」(30分)
・質疑応答、アンケート記入

●講演「日本社会での就職と進学に向けて」講師：NPO法人愛伝舎 坂本 久海子



「日本での進学と就職に向けて」に関しては
飯野高等学校と同じ資料を使用し説明を行いました。



●日本で働く外国人の方からのお話「日本で働くこと」

講師：ファミリー ジャッセル シェーン氏

(フィリピン出身、シキボウ株式会社鈴鹿工場勤務 飯野高校出身)

「先輩のお話」としては、飯野高校出身でシキボウ株式会社鈴鹿工場で正社員として働いているフィリピン国籍の、ファミリー ジャッセル シェーンさんにお話いただきました。ファミリーさんにはインタビュー形式で坂本からの質問に答えていただきました。日本語学習の方法、高校時代の取り組み、就職をするときの考え方、正規雇用と非正規雇用の違いを理解して、どういう準備をしたのか、就職をしてからの遣り甲斐、努力していること、これからの目標などお話いただきました。就職後も日本語や仕事の理解力を高め、仕事により取り組んでいきたいという思いを伝えてくれました。自分から積極的に周りの人とコミュニケーションを取って、仲間を作りたいという思いを送ってくれました。

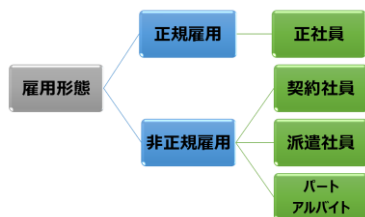
○ 参加した生徒の感想

- ・10歳から日本にきて、わからない状態からアニメの日本語と字幕をみながら自然と学べたということを知ってすごいなと思いました。ファミさんは勇者ですね。
- ・良かったです。
- ・生涯賃金の具体的な金額を見ながらだったので説明がとても分かりやすかったです。先輩の体験談を聞いて高校生のうちに身につけておいたほうがいい能力や仕事やりがいや大変なことも聞くことができたので、今日聞いたことこれから役立てていきたいなと思いました。
- ・これはとても楽しかったです。
- ・I think this is very important for the students like me.
Because I always thinking about future and study in Japan.
私のような外国人生徒にとってこのセミナーはとても大事なことでした。
なぜなら私は日本に住んで学ぶ将来をいつも考えているからです。
- ・今日聞いたお話を役立てたいと思います。
- ・実にはためになる話でした。私が知らないことをたくさん話したおかげで、私は色々なことを学ぶことができました。
- ・奨学金については、具体的にどのように借りられるのかを知りたかったです。全体的に緊張していた雰囲気が出て、わかりづらい点(聞きにくかった点)があったが、非正規雇用と正規雇用の違いを理解することができて満足しています。
ファミリーさんについては、先に勤務している会社を説明してほしいかったです。

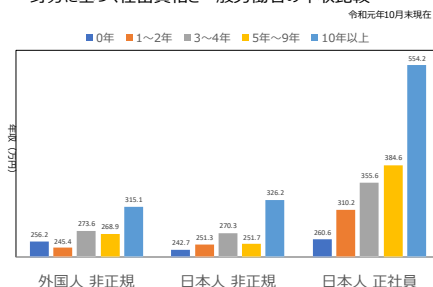
(3) 日本の教育制度及び働き方に関する資料

1. 日本の社会の働き方を知ろう①働き方

働き方（雇用形態）には、いろいろな種類があります。同じ会社で働く時にも雇用形態でもらえるお金や受けられる社会保障制度が違います。



身分に基づく在留資格と一般労働者の年収比較



1. 日本の社会の働き方を知ろう②生涯賃金

生涯賃金は、学校を卒業してから働いて一生で、もらえるお金のことです。会社の大きさや仕事内容だけでなく、学歴・性別・雇用形態によってその金額は違います。

1) 正社員で働いてもらうお金

卒業してから60歳の退職まで正社員を続けた（転職なし）場合

	高校卒	短大卒	大学・大学院卒
男性	210,000,000円	220,000,000円	270,000,000円
女性	150,000,000円	180,000,000円	220,000,000円

2) アルバイト・契約社員・派遣社員で働いてもらうお金

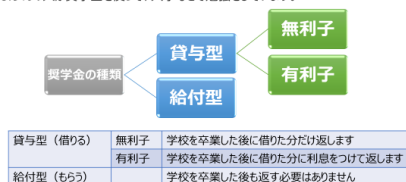
卒業してから60歳までフルタイムの非正規社員を続けた場合

	高校卒	短大卒	大学・大学院卒
男性	130,000,000円	130,000,000円	160,000,000円
女性	100,000,000円	110,000,000円	120,000,000円

（出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「コース別労働統計2019年～労働統計加工処理室」）

2. 進学について知ろう④奨学金

奨学金は、学費（勉強するためのお金）をもらったり、借りたりする制度です。48.9%の人が奨学金を使って、大学などで勉強をしています。



今年度は飯野高等学校とみえ夢学園高等学校でセミナーを行い、県内の外国籍生徒のいるほかの高校へはオンラインで配信し、視聴してもらうことができました。

セミナーの資料はポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語、英語に翻訳したものを作成しました。

資料として、働き方の違いや年収の違いを提示し、具体的な数字から考えてもらいたいと思いました。

将来を考えるきっかけにしてほしいと思います。

3 成果と課題

本事業は、今年で3年目となりました。県立高校を卒業して正規雇用で働く人、短大に進学して今後希望の進路につく先輩の話聞いてもらうことができ、生徒に身近なモデル像を紹介できました。高校に進学し卒業後も日本で定住する多くの外国人生徒が増えて、早くから将来設計をしてもらうことで、より安定して暮らしてほしいと思います。情報があるという事は、人生の選択においてとても重要なことだと思います。新型コロナウイルスの感染拡大で、外国人の感染は多く、雇用が不安定になり、困窮している様子が伝わってきました。多くが非正規雇用のため、感染の影響による保証が脆弱の為、収入減少で困窮している人が多くありました。経済の影響を直接的に受けており、保護者の雇用状況は生徒たちにも考える機会になっているかと思っています。

高校卒業後に就職する場合、外国人の生徒は非正規雇用にくくケースが少なくありません。派遣雇用の場合、高卒後の正規雇用より収入が高いため、派遣就労を選ぶと考えていましたが、ファミリーさんの同級生で正規雇用で就職した人で、仕事を辞めて派遣就労に変わったという人が複数いることを聞きました。その理由は収入の問題より、日本語の理解力の不足によるストレスが大きいという事でした。外国人が多い職場で働く場合、言葉のストレスや人間関係の緊張感が、日本人の中で働くことより少ないという事でした。仕事の場で日本語の理解力が低いことで、自信を無くしストレスを感じて、正規雇用の仕事を辞めるということで、高校時代で日本語力をつけることは、基本として重要なことだと思います。